

一宮町長
馬淵 昌也

先日、わたくしの個人用パソコンが壊れました。急に画面が立ち上がらなくなったので、専門家である義弟に調べてもらったところ、ハードディスクが壊れていることがわかりました。また、前後して、データのバックアップのために使っていた外付けハードディスクも壊れてしまいました。そこで、しばらくパソコンは使えず、データも見られなくなりました。

記憶によれば、このパソコンは、まだ5年程度しか使っていません。外付けの方も、大体同じようなものかと思えます。しかし、繊細な半導体などを使ってできている機械なので、5年もすれば壊れるものなのかもしれません。

思い起こしてみると、むかしは、耐久消費財は、結構長持ちして、10年以上平気で使っていたような気がします。昭和の時代のカセットレコーダーなどは、今でも使えるものがあります。ところが、今の先進技術のものは、非常に便利ですが、高度すぎるせいか、結構壊れやすく、また壊れたら修理が難しいものが多いように思います。

また、今のものはモデルチェンジが早く、3年も経つと前のモデルは廃棄

されています。息子が3年ほど前に買った携帯電話について、新たなケーシングを購入しようとしたところ、すでにそのタイプは生産が終わっており、売っていないかった、ということでした。

いま、地球温暖化の急激な進展などで、持続可能な社会をめざさなければいけない、ということが盛んにいわれています。いわゆるSDGsがそれです。しかし一方で、資本主義の最前線走る先端技術産業においては、膨大な量の製品が随分短い時間で、生産され、消費され、廃棄されてゆく仕組みになっています。「もったいない」ということが一時もてはやされましたが、それとは正反対です。

これで果たしてよいのでしょうか。大量生産・大量消費・大量廃棄のスタイルを維持したままで、果たして「持続可能な社会」を展望できるのでしょうか。わたくしたちは、真剣に生活スタイルを変えてゆかなくてはならない時にきているのではないのでしょうか。

すぐできることは限られていますが、この課題は、誰もが当事者として取り組むべきものだと思います。それぞれの立場で何をすべきか、考えてゆきましょう。